

東日本大震災対策委員会被災地域の復興グランド・デザイン分科会（第4回）

議事録

日時：平成23年6月20日（月） 10:00-12:00

会場：日本学術会議 5-C (2) 会議室

出席者：淡路、江原、今井、西澤、大西、河田、宮下、広渡、進士、石川

1. 講演：東京電力福島第一原発事故による農耕地の放射能汚染の実態と対策

独立行政法人農業環境技術研究所理事長 宮下 清貴

- ・1959年より、定点調査を実施。最も高い年度は、1965年。

日本の農耕地は、5.6-7.6 Bq/kg

- ・今回の事故による農産物の汚染

3月17日暫定規制値を発表。4月8日 稲の作付に関する考え方を決定

- ・今後の対策

粘土鉱物に強く結合、水溶性（イオン）はわずか。

しばらくは表層に多い。時間と共に徐々に下層へ移行

<当面は、表土をはぐことが、確実な対策>

- ・議論：農地の種別により、きめの細かな 対策が必要（水田、畑地）

土壌中の放射性セシウム濃度に移行係数をかけたものの情報が必要

農地に関しては、ゾーニングを現在行っている。

里山、森林については、まだ、行っていない。

2. 提言について

学術会議から国の復興会議には、提言書は出したが、国の復興会議において、学術会議からの提言は、配布はされなかった。

ほとんど、取り上げられなかったという事実に対して、どのように対応していくか。

議論：専門別委員会に、投げかけてより詳細に検討。

7原則のもとに、この分科会で指針を示していくべき。

方針：①この提言を、各委員会に投げかけ、議論を詳細化していく意思のある委員会は、9月10日までに、まとめて提出する。

②本分科会の委員は、各自の問題意識に照らし、7月28日の会議までに、原則を発展させたメモを提出する。

次回：第5回 7月28日（木）10:00-12:00

第6回 9月14日（水）10:00-12:00